

教員名	小玉 重夫 (KODAMA Shigeo)
所 属	人間文化研究科人間発達科学専攻
学 位	博士 (教育学) (1997年度、東京大学)
職 名	教授
URL / E-mail	http://www.li.ocha.ac.jp/hss/edusci/kodama/ / skodama@cc.ocha.ac.jp

## ◆研究キーワード

教育の公共性 / シティズンシップ教育 / ハンナ・アレント / 再生産理論 / 公教育思想

## ◆主要業績

総数 ( 11 ) 件

- ・「マルチチュードとホモ・サケルの間ーグローバルイゼーションにおける包含と排除ー」  
(教育思想史学会『近代教育フォーラム』15号、pp.89-102.、2006.9.)
- ・"Rethinking Hannah Arendt in the Context of Politics in 1990's Japan: Focusing on Arendt's Critique on Karl Marx" Research Monograph: Studies of Human Development from Birth to Death,  
Ochanomizu University 21st COE Program, pp.109-116, 2006.12.
- ・「バーナード・クリックを導入するー政治教育における熟議と闘技の間」  
(『高校生活指導』172号、pp.114-119、2007.3.)
- ・「今、求められるシティズンシップの教育と家庭科」日本家庭科教育学会第49回大会、2006年7月1日、  
日本女子大学 (『日本家庭科教育学会誌』vol.49-3、2006.10.、pp.203-216)
- ・「シティズンシップ教育の意義と課題」  
(『私たちの広場』291号、財団法人・明るい選挙推進協議会、2006.11.20.、pp.4-6)

## ◆研究内容

現代の教育思想を中心に研究している。私たちがふだん自明のものとして受けいられている「教育」や「学校」を、歴史的・構造的な視点から問い直し、そのうえで、教育改革の筋道を、特に公共性の視点から追及していくことを研究課題としている。当面は、基礎的研究として、教育の公共性について思想史的な視点から解明することに取り組み、また、応用的、実践的研究として、新しい市民を育てるシティズンシップ教育の課題に取り組んでいる。

## ◆教育内容

学部教育：文教育学部教育科学コースで、教育思想に関する専門科目を担当している。2006年度の演習(ゼミ)では、国家と教育の関係をテーマとした文献や、シティズンシップ教育に関する文献などを取り上げた。また、卒論では、教員養成の思想を扱った論文、身体と教育の関係をとり上げた論文、イギリスのメディアリテラシーの思想を取り上げた論文、学校選択の理論を取り上げた論文等が提出された。学部教育ではこのほか、教職課程を担当した。

大学院教育：博士前期および後期課程で、教育思想に関する授業を担当している。2006年度の演習(ゼミ)では、教育における政治と権力の問題を、ミクロとマクロの視点から複眼的に検討することを課題とし、特に公共性やシティズンシップ(市民性)をめぐる最近の研究動向を取り上げ、ネグリ=ハートの『マルチチュード』、バーナード・クリック等を検討した。

## ◆Research Pursuits

---

My research field is educational thought, and I am mainly concerned about the obviousness of the "education" and the "school", which I try to deconstruct from a historical and structural viewpoint.

In order to do this, I set two research strategies, one is basic and the other is applied and practical. The basic research theme is about the publicness of education focusing on the historical context of educational thought. The applied and practical research theme is about the citizenship education for bringing up a new citizen.

## ◆Educational Pursuits

---

Faculty education: As the exercise in the 2006 fiscal year (seminar), we discussed by taking up the literature on the theme of the relation between nation state and the literature about citizenship education, etc. In faculty education, I am also concerned with the education and the management of the teacher-training course.

Graduate-school education: As the exercise in the 2006 fiscal year (seminar), we examined the problem of the politics and power in education from the various points of view, taking up the Hardt=Negri's "Multitude", and the theory of Bernard Crick on citizenship education.

## ◆共同研究例

---

- ・日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究
- ・お茶の水女子大学附属幼・小・中学校（文部科学省開発指定校研究）

## ◆共同研究可能テーマ

---

- ・シティズンシップ教育についての共同研究
- ・学力（格差）問題についての共同研究
- ・戦後教育学の理論的・歴史的検討に関する共同研究

## ◆将来の研究計画・研究の展望

---

教育の公共性に関する基礎的な研究として、戦後にアメリカで活躍したハンナ・アレント（1906-1975）の思想を教育問題との関係で位置づけ直す作業を行っており、将来的にはそれをまとめていきたいと考えている。また、教育の公共性に関する思想研究と、シティズンシップ教育に関する実践研究とをつなぐために、主要業績に記したような研究成果をもとに、学力問題を切り口として、大人と子どもの関係を再構築する視点を提起する著作を準備中で、2007年度中に成果を発表することをめざしている。

## ◆受験生等へのメッセージ

---

教育の諸問題を幅広い視野から理論的にとらえ直すことが、教育思想のおもしろさだと思います。とかく自明なものとして受け入れられがちな「教育」＝「善きもの」というとらえ方を、いったんは相対化したうえで、教育実践の困難性と可能性を過不足なく追究していくことを、当面の研究課題としています。

大学という空間が持っている知的な「遊び」の可能性に、ぜひ期待して欲しいと思います。